

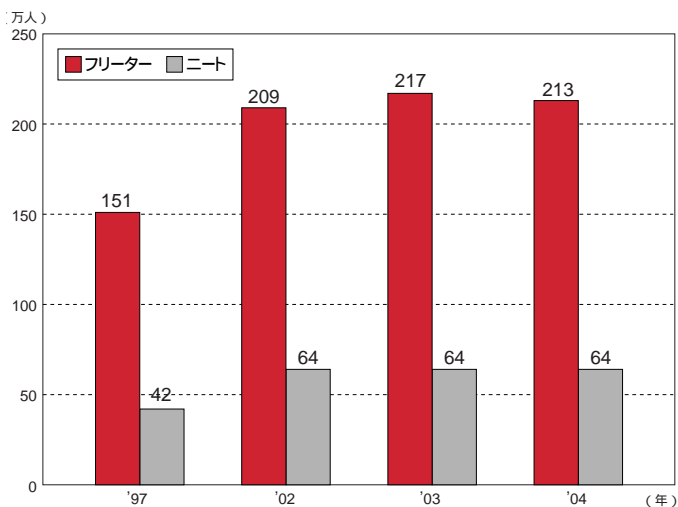
フリーター・ニート

フリーターやニートの数は高止まりが続いている。

フリーターは進路選択肢の1つと思われがちだが、収入や待遇面は不利なことを知っておきたい。

#01 フリーターとニートの人数

フリーターは213万人、ニートは64万人



15～34歳でアルバイトやパートとして働く人(フリーター)の数は82年には約50万人だったが、現在はその4倍の200万人を超える。また、15～34歳で通学も家事もしていない若年無業者(ニート)は現在64万人で、同年齢人口の約2%にあたる。どちらもこの数年はほぼ同じような人数で推移している。

フリーター人数：厚生労働省「平成17年版労働経済の分析(労働経済白書)」

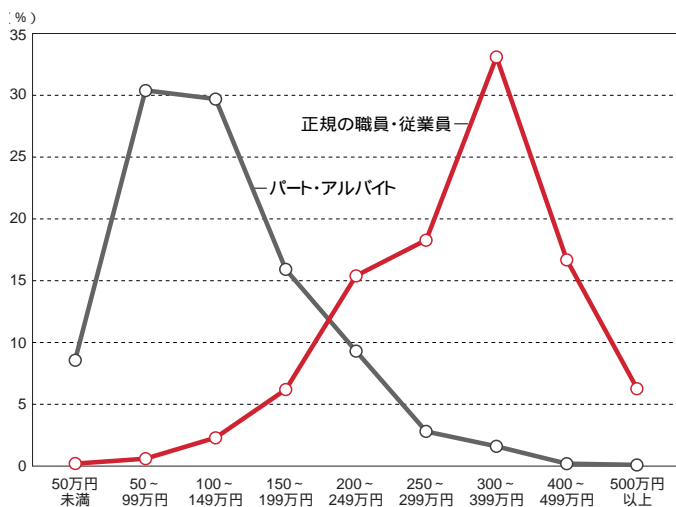
97、2002、03年については「平成16年版労働経済の分析」より転記。04年については、総務省統計局「労働力調査(詳細結果)」を厚生労働省労働政策担当参事官室にて特別集計。

フリーターの定義等が異なることから、97年と02年からの数値は接続しない。

ニート人数：総務省統計局「労働力調査」各年平均より、15～34歳における非労働力人口のうち通学も家事もしていない者の人数を算出

#02 正社員とフリーターの年収比較

アルバイト等の4割が年収100万円未満



正規の職員・従業員とパート・アルバイトでは年収に大きな差が見られる。25～29歳の正規の職員・従業員では年収300万円以上が半数を占めるが、パート・アルバイトではわずか2%程度。100万円にも満たないパート・アルバイトが4割いる。

総務省統計局「平成14年就業構造基本調査」より集計
25～29歳